

「心の渴きを神様に」

～神様はあなたを見つめている～

詩編 42 : 1 - 11

■ 母の日とは

今日は母の日の礼拝です。母の日、お母さんはどんな存在でしょうか？私たちがこの場所にいるのはその母の痛みを通った戦いの故だと思います。神様が母を与えたのには大きな理由があります。私たちが父母を通して神様の存在を知るためです。

母の存在はとても大きなものです。その子の人生を大きく変えます。ですからあなたの存在は神の代弁者なのです。感謝をする日です。感謝をされると人は考えます。本来の自分はなるべき姿として生きているのかを考えるのです。

■ 3つ母の存在とは

「私は世界で一番すぐれた学校で神の真理を学んだ。その学校とは母の膝の上にあった。」彼が人生を悩み母を失って自らの人生も絶とうと思ったとき思い出したことは母の膝の上で学んだことであった。それが神の愛であったのだということを知ったのです。ですから、家や教会の子供たちに接する膝の上の姿が、子供たちの人生を変えていくのだとよく理解しておいて頂きたいのです。

■ 3つの大事なこと

母は3つのことを子供たちと大事にして頂きたいのです。①子供を絶えず勇気づける（一つの否定的な言葉を聞くと10の強い励ましを受けないと乗り越えられなくなる）②その子に善悪の区別を与える（人間的判断ではなく、聖書が土台）③その子の人生の出会いのために祈る（子供たちが他の人に対してやさしく寛容であるように。子供たちが艱難にあって勇気をもって立ち向かえるように。子供たちがよき友と出会い成長できるように。子供たちの良い伴侶が与えられるように。）

■ 詩編 42 : 1 - 11

さまざまな苦難や戦いがあったとき、ダビデは母の姿である神様のことを思い起こした。エルシャダイ（全能の神、父的感じ）ヤハウエ（ありてある、母の乳房を差し、その人をいつも育む姿）。父と母の存在というのは私たちから神様はどんな方であるかを思い出させる一つの手がかりである。が、雛形であって完全な愛の姿ではない。ですから、母の日とは、もう一度神様に求める日。感謝とともに、もう一度神様に願ってよい日。本当の愛を確認する日です。神様の前にもう一度心の願いを打ち明けてほしいのです。感謝がありつつも何故？という思いを。そこで、神様の思いを理解すると心は変えられていくのです。

みなさんは、悲しみが祈りになりますか？悲しみがどのように変化するのでしょうか？

昨年11月ごろ、「悲しみが処理されないでいると怒りになる」という話をしました。私たちは象なのでしょうか、象使いなののでしょうか？悲しみを処

理しているのでしょうか？悲しかったと言えていますか？自分の心に嘘をついていませんか？母の日は、神様の前に、子供が「お母さん」と訴えに行くように祈りに行く日なのです。

■ エペソ 1 : 18 - 19

神様の前に出ていくと、この聖書の言葉がはっきり見えるようになります。

私たちは悲しみに打ちひしがれるとどうなるでしょうか？怒りが来て、人を指さして「あいつのせいで」とおもうようになります。「あいつのせいで」という感情は「裏切られた」という失望という感情を抱かせます。それは私たちに絶望を与えます。望みを失い絶えるのです。しかし、神様のほうへ心を向けることができると私たちの心は癒やされ変えられて行きます。あなたの心の目がはっきり見えるようになります。神様の前にでるのは、あなたの心のフィルターを取るためです。元気にならないのは、あなたの心の目が見えないからなのです。あなたの心の中にある、「怒り」や「煩い」や「失望」が残っていることが危険なのです。

そこで、母がいるのです。母が抱っこして、「わかったよ。大丈夫だよ。お前は乗り越えられるから。」私たちは選ばなくてははいけません。「怒り」から「願い」へ。「願い」になると慰められます。「私はこうなって欲しいのです。どう伝えたら届くのでしょうか？」と祈るのです。そうすると知恵が与えられます。

■ どうすれば

①神に求める（祈り）

行動する前に、あなたの願いを神に求めてください。

②もし信じるなら（信じる心）

あなたが信じる心を失ったら、子供たちが失います。信じる心を伝えるのがあなたの仕事です。ですから、信じる道をあなたが選ばなければなりません。

③種まき

あなたの心の種まきが実を残すのです。神に祈り求めたら信じる心の種をまいてもらいたいのです。というのは、「言葉」なのです。みなさんはどのような言葉を語りますか？あなたがどれだけ人の前で良い言葉を語っても、あなたの近い人へ語る言葉があなたの畑ですから、あなたの家で、あなたの家族にどんな言葉を語っているのでしょうか？今日みなさん向きを変えましょう。私たちの苦難の道の中で、神様に感謝をし、良い言葉を語り、つらかったことは悲しかったと言えば良いのです。そのために教会があるのです。そして、神様の前に悲しみを下ろしたら、あと残るのは慰められた希望です。失望に終わらせません。今日、希望をもって神様に祈りたいのです。